



第 16 号  
2024 年  
10 月 27 日

### 小笠原プロジェクト2024参加者の声

教区の枠を超えた交流に参加した、青年たちの声をお届けします。

\* \* \*

普段、通っている教会以外で礼拝をささげる機会が少ない私にとって、今回の「小笠原プロジェクト2024」は他教区、他教会の青年との交流によって、神さまとの縦のつながりのみでなく、仲間との横のつながりを強く感じることでできる機会でした。今回のプロジェクトによる青年たちとの新しい出会いは今後の信仰生活の糧になることを実感しました。

東京教区 聖アンデレ教会 卓由真

\* \* \*

この旅では、教区の枠を超えて出会い、食事を共にし、語り、歌い、共に祈るといふ恵みにあずかることができました。この多くの賜物を糧に、これからも主と人と、出会い直させていたいただきたいと思えます。今年、小笠原プロジェクトに関わってくださいましたすべての人に、ことに小笠原

聖ジョージ教会の方々に心から感謝申し上げます。

北関東教区 土浦聖バルナバ教会 中谷忍

\* \* \*

私はこれまで、全国青年大会やU 26などで他教区の青年と交流した経験があります。一方小笠原プロジェクトは長期間ですし、小さな集団です。またほとんどの人と初対面だったため、きちんと交流できるか大いに不安でした。しかしその不安はすぐに解消されました。どの人も積極的に話しかけてくれました。今後も他教区との交流を進めていきたいと思いました。

横浜教区 市川聖マリヤ教会 藤井春幸

\* \* \*

自分は普段ほとんど教会に行っておらず、まに行った時も会うのは子どもか、10歳以上年の離れた大人がほとんどなので、今回のキャンプみたいな、教会の集まりだけで同年代の青年が大半を占めている状況は非常に貴重な体験で、とても楽しかった。みんな優しく温かかったので、こういう集まりにはこれからも参加していきたいと思った。

北関東教区 大宮聖愛教会 江川顕

\* \* \*

今までは教区内の同世代の仲間しか知らず、これ以上の広がりはないという思いが漠然とあったのですが、今回のプロジェクトでは初めて会えた方ばかりで驚きました。そして共に活動を通じ、感じたことを共有して、教区の枠を超えれば、心の通じ合える同世代の人々とまだまだ出会えることができると気付かされました。

東京教区 インマヌエル新生教会 道須南人

#### ★次回巡礼企画のご案内★

#### 水戸聖ステパノ教会

日時：11月30日(土)11時~15時  
費用：昼食は各自持参。自由献金あり。  
見どころ：戦災・東日本大震災を経た教会の歴史解説、併設の愛恩幼稚園の働き、水戸の街散策  
申し込み：11月24日(日) 締切  
定員：30名  
junreiteam@googlegroups.com まで。

巡礼チームブログは右のQRコードからご覧ください！



## 「新教区設立への道」の現在地②

宣教協働特別委員会 司祭 斎藤 徹

宣教協働特別委員会は、これまでの4つの小委員会を備え、協働と新教区設立への歩みに取り組んできました。

前号にて、新教区設立への働きを加速させるために、新たに2つの小委員会を設置していく予定であることを記しました。しかしながら、新教区の大きな課題である「教役者給与」の整備に関して、信徒・教役者からなる給与検討の特別なチームで取り組む必要があることが確認されました。本年秋の教区会で、報告・承認をいただくことを予定しておりますが、宣教協働特別委員会に、宣教・教務・給与検討の3つの小委員会を新たに設置することとし、既存の財政小委員会と併せた4つの小委員会を、新教区設立の「実務チーム」と位置付けて活動を展開しようと考えております。

10月5日に東京教区聖アンデレ教会ホールにて、北関東・東京教区合同教役者会が開かれました。両教区より37名の教役者が集い、主に新教区における教役者給与・宣教体制それぞれの方針案について担当者から説明があり、それに対して教役者からのヒアリングを実施する目的で開催されました。

新教区の教役者給与に関しては、会計支出の約7割を人件費が占めていますので、新教区の財政を考えるといく上で、大きな課題です。また両教区の給与表には差異があり、教役者にできるだけ不利益が生じないように、また信徒の負担が重くならないように配慮・整備していくことは容易ではありません。それには時間と協議を重ねていく必要がありますが、今回の合同教役者会で方針案の説明がなされ、今後もヒアリングをしながら検討されていく予定です。次回合同教役者会は、11月29日に大宮聖愛教会で実施される予定です。

新教区の宣教体制については、両教区内にある既存の活動(部会や委員会など)を整理しつつ、新たな教区で展開していく宣教について、その骨組みを構築していくことを考えています。具体的には、7月27日に開かれた合同部長・委員長会で宣教担当グループから提示された新教区宣教において大切にしたい4つの柱(コミュニケーション、教育・共育、祈り、いのち)を中心に、新教区の宣教体制案について協議がなされています。現状では、幅広い年齢層にアプローチしつつ、ことに青少年世代と共に歩む体制の整備、教区の運営・管理、宣教活動にそれぞれ特化した組織づくりなどが協議されています。

今回の合同教役者会では、時間の都合で十分な議論やヒアリングを全て行えたわけではありません

んが、今後も回を重ねてこれらの課題に取り組んでいきたいと考えております。また、現在は教役者に対する説明が行われ始めた段階ですが、今後、信徒のご理解やご協力をいただくためにも協議の機会を設けることを予定しています。

これまでの皆さんの教会生活、その営みを大切にしながら、新教区設立によって新たな宣教を展開していく「教会」としての道をご一緒に模索していきましょう。

きょうどう川柳

夏祭り 眺め佇む 牧師ひとり

宿題の 教会訪問 歓迎し

『きょうどう通信』へおたよりをお寄せください。宣教協働へのご意見・ご質問は下記メールアドレスまで。ご意見は「特別委員会」で共有しますが、ご了承ください。「冬」をテーマにした俳句・川柳もお待ちしております。俳号・匿名どちらも可です。  
kouhou.k.t@gmail.com

『きょうどう通信』第16号

北関東教区・東京教区宣教協働特別委員会

広報小委員会